

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	独自の理念を掲げている。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念を申し送りなどにより確認し、共有している。利用者やご家族も共有できるよう、見えるところに掲示している。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	便りを発行したり、運営推進会議等を行い理解してもらえようとしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	夏祭り等の行事などに町会のボランティアに来てもらったり、町会のお祭りに参加したり、手伝いのボランティアも行っている。町内の廃品回収にも協力し、散歩時なども挨拶を交わしている。担当職員は、キャラバンメイトに登録している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>家族からの意見も取り入れ、玄関に感染予防対策として、消毒設備を設置する準備を行っている。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	説明し同意を得ている。	
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	普段も訴えを聴いているが、茶話会も毎月行い、利用者から意見を出す機会を設けている。相談の為、事務室を訪れる方もおり、その都度対応している。	
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会に来た時に近況を伝えている。また、電話で報告する場合もある。金銭管理についても、出納帳をつけており、希望者にはコピーも提供している。	
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会時に会話の中で尋ねたり、意見箱を設置している。外部の苦情・相談窓口や電話番号を玄関に掲示している。	
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	管理者は、毎日引き継ぎの時間を設けて、意見や提案などを表出できる機会を設けている。意見や提案は、昼の引継ぎを中心にユニットで話し合い、対応を決めている。重要なことは引継ぎノートを活用し、記録している。	
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	通院や検査など、必要な時間に配置職員を増やすよう、パート職員の時間帯を調整し努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動の人員は年1～2名にとどめている。異動時お別れ会を開くなどの配慮も行っている。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修に参加したり、日中のミーティング時間を活用し、勉強会を行っている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修などを活用し、交流する機会を作っている。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>母体施設とスポーツ大会に参加したり、忘年会など機会を設けている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ケアマネと協力しながら、受け止める努力を行っている。また、可能な範囲で事前に訪問している。ホームの理念や方針についても説明している。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用時に見極めを行い、家族等とも相談しながらその時に必要な対応に努めている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス開始時はまず、安心して過ごせるような場面・雰囲気作りを行っている。紹介を兼ねた茶話会なども企画し、職員が仲介しながら、馴染めるよう配慮している。本人が作った小物なども居間に加え、雰囲気作りにも配慮している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食や畑仕事など、利用者から学び、一緒に支えあう関係を築いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、夏祭り、交流会など家族にも参加してもらう場面を作っている。また、通院もホームだけでなく、家族と協力しながら支援している。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関係の理解に努めている。場面に応じて、橋渡しの援助も配慮している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた、人や場所との関係が途切れないように、車での送迎や一緒に外出するなどの配慮を行っている。(友人宅への送迎や美容院の送迎など)		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係など、職員間で情報を共有できるようミーティングを活用している。孤立しないよう、食事やレク・外出などの場面でも、利用者同士で声を掛け合う場面も見られている。孤立しそうな場合は、職員が間に入りサポートしている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了しても、必要とする援助や情報提供を行っていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いや意向を把握できるよう、職員間での情報の共有に努めている。カンファレンスやケアプランにも反映されるよう努めている。思いは、外出や諸活動へも反映されるようにしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>日々の会話やご家族からの情報提供をもとに、把握に努めている。職員間で情報を共有する為センター方式や生活歴の記入を行っている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の記録や3ヶ月に一度のカンファレンス時の見直しなど、現状の把握に努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人との日々の会話や、面会や電話などでの相談などから、要望やそれぞれの意見を取り入れている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じて見直しを行っている。状態の変化があれば、新たに計画を相談実施している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにのっとり、個別の記録に記入している。気づきや対応の統一に必要な事は介護日誌に記録し、見直しや情報の共有に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて、柔軟な支援をしている。隣に併設されているデイサービスの設備の活用や交流なども進めている。地域のイベントにも参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に参加している民生委員が、地区の利用者と顔を合わせる機会も多い。消防なども施設の見学や救急救命の講習を行った事もあり、今後も意向や必要に応じて協働していく。		
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、意向や必要性が無い為、サービスは活用していないが、ケアマネや他事業者とのかかわりがあるため、支援する事は可能である。		
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域包括支援センターを利用している利用者がいないが、パンフレットも玄関に設置しており、運営推進会議への参加もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院もあるが、本人のかかりつけ病院への受診を継続しており、適切な医療を受けられるよう支援している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の状態に合わせ、専門医の受診を支援している。変化等があれば、医師に相談している。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日中は、配置看護師もあり、不在の際は併設のデイサービスの看護師の協力を得ている。夜間は、母体施設の待機看護師の協力を得ている。また、受診時にかかりつけ病院の看護師に相談する場合もある。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	情報提供書(サマリー)の提供など、必要な情報の伝達を行っている。また、可能な範囲で面会し、状況の把握に努めている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を定めており、入所時説明を行っている。状態が急変した時の搬送病院なども本人・家族と相談している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	より良く暮らせるためグループホームで、できること・できないことをご家族に説明している。母体施設の特養があるため、特養でのできること・できないことなどの説明も行ってあり、今後の変化に備えての検討を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージを可能な限り防ぐよう、入所前に訪問し、関係を築くよう努めたり、なじみのものを持ち込めるよう配慮している。ホームから他の住居に移り住む際も情報提供等協力している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねないよう、配慮している。(排泄時の声がけについても) また、個人情報の保護についても配慮している。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望を表せるような場面作りに配慮している。説明も理解できるような言葉に置き換えるよう配慮している。選択出来る機会を設けるようにもしている。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活上のルールはあるが、入浴日もなく一人一人のペースに合わせている。1日の生活の流れも、希望に添って支援している。利用者から、「こう過ごしたい」と話し掛けてくる場面も多い。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧なども自由にしている。理・美容院は本人の行きつけの店に通っている。ホームの近くの理・美容院から選ぶ方や自宅のそばの美容院に通いつづけている方もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けについても、利用者同士で相談・協力し合って役割分担している。職員も一緒に行っており、必要に応じて支援している。また、食卓に畑で作った野菜や昔食べたダイナの漬物なども提供し楽しめる場面作りに取り組んでいる。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の状況に合わせて楽しめるよう支援している。あぶらげ餅など昔からたべられてきたものを一緒に作って食べたり好みの物が食べられるよう支援している。摂水のジュース類も選択できるようにしている。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンやオムツの使用状況を記録し、不快感が軽減されるよう支援している。パターンの把握ができトイレ誘導により、パットの汚染が少なくなった方もいる。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者と相談し、入浴を促している。曜日は決めていない。入浴の時間も利用者とは相談しながら一人ずつ入浴している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣や体調にあわせ、支援している。昼夜逆転傾向にある方には、助言し生活のリズムができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとり一人の生活歴の把握に努めている。ホーム内での役割分担も徐々にできており、利用者同士協力している。昔からやってきた仕事などをお願いする場面も作っており、利用者同士誘い合う場面も見られる。それぞれの気晴らしは何か職員間で情報を共有し、支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ひとり一人の残存能力に合わせ、ご家族とも相談して支援している。所持している方、していない方へ、支払いの場面での支援も行っている。</p>		
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>その日の希望に添って、買い物・外出を支援している。車椅子の方でも、職員が付き添い、十五夜のスキ探りや近所の店への散歩・買い物も支援している。</p>		
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>日々の会話や茶話会などで相談しながら、海や一代様、紅葉見物などへ一緒に出かける機会を作っている。ご家族と外出や散歩に出かける機会もあり、支援している。</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者が自由に電話できるよう、居間に電話を設置している。希望者は事務室からかける場合もある。一人一人の状況に合わせ、ダイヤルを回すなどの支援も行っている。手紙についても投函や代筆などの支援も継続して行っている。</p>		
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>いつでも気軽に訪れ、居室や居間で過ごしている。面会時間も決められていない。併設のデイサービスの利用が知人の面会に訪れる事もある。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については、行っていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアに取り組んでおり、玄関も自由に入りできる状況である。利用者・家族に外出時は必ず職員に声をかけて欲しいことを説明しており、職員も所在確認をしながら取り組んでいる。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら行っている。特に日中帯は、清掃や摂水などの動きの中で自然に行われている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態にあわせて対応している。見直しはカンファレンスを中心に行われている。包丁なども夜間の保管場所を決め対応している。包丁や洗剤類は夜間別の場所・鍵つきの場所などに保管されている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりのリスクについて話し合っている。ヒヤリハット・事故報告も記録しており、定期的に見直しを行っている。また、対応の統一を図る為の話し合いを行っている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	リスクについての話し合いも行っている。救急救命講習も定期的に行っている。		夜間の急変に対応する為、宿直も配置された。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	概ね2ヶ月に1回の訓練を初年度より行っている。地域の人とは、町会長さんや運営推進会議などの場を活用して話をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p> <p>状態が変わるたび家族と相談し、抑圧感のないよう配慮している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>体調の変化はその都度、速やかに対応している。引継ぎを活用し、他ユニットへの伝達も行っている。</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>服用の支援を行っており、医師へも症状の変化を伝えるようにしている。昼の引継ぎを活用し、受診前の確認や受診後、医師の指示や処方なども確認を行っている。</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>便秘の及ぼす影響について理解しており、排便状況の確認や水分摂取量の確認を行っている。また、身体を動かすように散歩や立位訓練などの取り組みも行っている。便秘の方へ温タオルも使用することがある。</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>一人ひとりの能力に合わせ、食後のうがいや義歯の洗浄、ポリドントの使用などを支援している。</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>食事については、母体施設の管理栄養士・主任栄養士が計算している。一定の水分摂取ができるよう、個々人の状態に合わせて支援している。飲み物についても、糖尿病などの状態に合わせて助言提供している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体施設と同様に、対応の取り決めがある。予防接種なども積極的に支援している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	担当を中心に、衛生管理に勤めている。食材の管理についても同様。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表札も分かりやすく、大きな木の表札を使用している。玄関周りも、ベンチを置く、花を植えるなどの雰囲気作りへ配慮している。玄関に鍵が掛けられていない為、家族や近隣の方も自由に出入りしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場面に合わせて、テレビの音量や照明などの配慮を行っている。居間や玄関にも季節の花を飾ったり、季節感を大切にしている。また、利用者の作った作品を飾ったり、生活の中に取り入れ雰囲気作りへも配慮している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食道を中心に思い思いに過ごせる場所作りを行っている。テラスや玄関、廊下などへベンチ等を設置し、場所作りを行っており、自由に活用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みのものを持ち込めるようにしている。ベットも個々人の希望や体調に合わせて木製や電動など選んでもらっている。テレビや冷蔵庫なども自由に設置している。また、家族も宿泊できるようになっている。希望者へは宿泊室の利用も対応できる。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>清掃時を中心に換気を行っている。冷暖房も外気温との差が大きくなるよう、職員が配慮している。利用者の状況に合わせて、助言や訪室をして調整している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全にできるだけ自立した生活ができるよう、手すりやトイレの扉・カーテンなどの設置を行っている。一人ひとりに合わせた利用方法も助言している。また、一緒に練習も行うこともある。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>利用者の状態を見極めて、支援している。場面に合わせて、できることを行う場面を作るよう働きかけている。居室間違いがある方へは、目印を決めている。受診時、料金を払うことができない方には、支払いは支援するが、診察券を出してもらうなど。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>併設のデイサービスの設備の活用や屋上の散歩など個々にあわせて活用している。天候によっては屋上のベンチで過ごすことも多い。居間も家具を移動し、余暇活動・音楽活動へも活用している。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

車椅子を利用している方も多いが、散歩や外気浴などを天候がよければほぼ毎日行っている。散歩時、近所の方と挨拶を交わすことも多い。近隣に、スーパーや薬局など様々な店舗があり、頻繁に一緒に買い物にでかけている。避難訓練も概ね2ヶ月に1回行っており、計画も職員が全員交代で行い、意識を高めている。外出も、利用者の思い出の場所などを大切に計画している。頭の体操にも取り組んでいる。また、生活歴を生かすような取り組みも行っている。